

宜野湾高校の生徒達へ（36）

2020.8.13

1・2年生の皆さんは、休校期間をどう過ごしているだろうか？ 「8月17日から学校に登校できるのかが気になる」と思うが、これについては8月14日の17:00以降に学校HPやTeamsで連絡する予定である。

これまでの新型コロナウイルス対応を振り返ってみると、皆さんは休校や分散登校、課題への取組等にしっかりと対応してきた。そのことは自信を持っていいし、校長としても皆さんの頑張りを誇りに思っている。

今回は、過去の『宜野湾高校の生徒達へ(GIS)』の内容を振り返ることにより、今後も予想される「不確実な未来」に備える心構えを皆さんと再確認していきたい。

『GIS(4)』(4/27)(臨時休校中)では、松井秀喜の『不動心』を取り上げた。

書名の「不動心」について、彼は述べている。「広く深い心」と「強く動じない心」—すなわち「不動心」を持った人間でありたいと強く思っています。もちろん僕も人並みに悩みます。苦しみます。失敗します。けれどもそこで挫けたり、逃げ出したりしない。悩みや苦しみ、失敗や逆境をどう糧にしていけるか。マイナスをどうプラスにしていけるか。いつもそんなことを考えています。

残念ながら過去に戻ることはできません。過去の自分をコントロールすることはできません。しかし、**未来の自分はコントロールできます**。少なくとも過去よりは思い通りになる可能性を秘めています。それならば、**前に向かう**しかありません。

休校や全国高校総体中止の現実を変えることはできない。ならば、この現実を受け止め、前に進むしかない！
これからGWを迎えるが、皆さんも新型コロナウイルス感染防止を心がけ、5月7日の学校再開に向け、**最大限の努力**をしよう！



『GIS(6)』(5/1)(休校期間が再延長)では、メンバーや父の死に直面したX JAPAN YOSHIKIの「**神は耐えられない試練を人間には与えない**」の言葉に、困難に立ち向かう勇気をもたらした。

『GIS(12)』(5/18)(臨時休校中)は5/21の学校再開前に出され、「夏以降にコロナ再流行の恐れ 冬に大きな山も 不確実な未来に耐えよう！」がタイトルの新聞記事で高山義浩氏(中部病院感染症内科)の発言を取り上げた。

皆さんは、新聞記事のどこが気になるだろうか？ 私が最も気になる箇所は、「**恐らく数年間、私たちは見通しの立たぬ社会を生きる**」である。学校は21日から再開予定であるが、その後、「**断続的な外出自粛**」が想定されるのであれば、今後も「休校の可能性がある」ことを意識しておく必要がある。

なぜ、学校が再開される前に皆さんにこの記事を紹介したか？

考えてみてほしい。私は、皆さんを不安に陥らせたいわけではない。

今後、私たちがいやでも直面するであろう現実を受け入れ、それに対する心構え・「**覚悟**」を持たないといけないと考えるからだ。

このような状況で、我々に求められるのは何か？ まずは、**感染拡大防止の予防策を徹底**し、自分をはじめとする「**命**」を守る。そのためには、養護教諭が説明したことをしっかり実践しよう。

次に、「**自ら学ぶ**」姿勢を確立すること。学校の課題をやるのは当然のこと。21日から学校が再開されるが当面の間は分散登校となり、授業も変則的な時間割になるだろう。このような状況においては、自分自身で学習を進めていく姿勢が強く求められる。わからない箇所があるならば、友人・教師を活用して**自ら解決**を図ろう。



『GIS(15)(16)』(5/27・28)(分散登校中)では、全国高校総体や夏の甲子園中止を受け、末續慎吾氏や馬淵史郎氏の言葉を取り上げた。両氏のメッセージは、「**真剣さを失わず、諦めるな!**」、「**苦しい時ほど、人間は試される。こっからが出発点だ。気持ちを切り替えていこう!**」であった。

『GIS(29)』(7/17)では、県高校総体を前に、コロナ防止対策への意識高揚を皆さんに求めた。

「このような状況で、我々に求められるのは何か？ まずは、**感染拡大防止の予防策を徹底**し、自分をはじめとする『**命**』を守る。そして、私たちに強く求められるのは自分をコントロールすることだ」。

これは私が、5月の分散登校の際、皆さんに話したことです。

皆さんの 「自分をコントロールする意識」・「覚悟」 が、薄れてきてはいませんか？

現在、1・2年生は休校状態。来週からどうなるかはまだ見通せないが、宜野湾高校生はこれまでも数々の困難を乗り越えてきたし、これからも乗り越えていけると信じている。**互いに思いやる心を持ち、力を合わせ、この難局を乗り越えていこう!**
沖縄県立宜野湾高等学校長 津留一郎